

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	最新臨床薬理学特論		
開講キャンパス	伏虎	教室	基礎教育棟3階講義室3 中講義室303
科目区分	専門科目	配当年次	1年次
必修・選択の別	選択	単位	1単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	薬物治療学、薬物療法、臨床薬学、薬物代謝関連酵素、遺伝子多型		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	教授 岩倉 浩、教授 須野 学、 <u>教授 江頭伸昭</u> 、准教授 山田孝明	
	薬		
授業の概要	最新の薬物治療、薬物療法や医療安全における臨床薬理学の役割や臨床応用等について概説する。		
到達目標	<input type="checkbox"/> 最新の薬物治療、薬物療法や医療安全における臨床薬理学の役割や臨床応用等について修得する。		
授業計画	<p>1. ～4. 薬物治療学特論 (岩倉 浩 / 4回) 【5/13 6限・7限、5/20 6限・7限】 代謝・内分泌、生活習慣病領域を中心に最新の薬物治療に関するトピックスについて講義を行う。</p> <p>5. 6. 医療安全と臨床薬理学 (須野 学 / 2回) 【5/27 6限・7限】 臨床薬理と薬物代謝関連酵素について概説する。</p> <p>7. 8. 薬物療法における臨床薬理学の役割と臨床応用 (江頭伸昭 / 山田孝明 / 2回) 【6/3 6限・7限】 薬物療法における臨床薬理学の役割、薬物動態モデルの構築と個別化投与量設計の解析手法について解説する。</p>		
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。		
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。		
成績評価の基準	授業への取組20% (発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢) 及びレポート80%によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。		
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。		
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。		

教科書・参考書

【教科書】特に指定しない。
【参考書】特に指定しない。